1. 評価結果概要表

作成日　平成20年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4271402192
法人名	社会福祉法人　杏寿会
事業所名	グループホーム　あけぼの
所在地	〒859－2112　長崎県南島原市布津町乙674－3 (電　話) 0957－72－7370

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855－0801　長崎県島原市高島2丁目7217　島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年3月7日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(H20年2月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　17　年　2　月　1　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	16　人	常勤　14　人, 非常勤　2　人, 常勤換算 4.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋　造り
	1 階建ての　階 ～　1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000　円	その他の経費(月額)	3,900　円
敷　金	有(　円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(　円) (無)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食　円	昼食	円
	夕食　円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円		

(4) 利用者の概要(2月12日現在)

利用者人数		18 名	男性　5 名	女性	13 名
要介護1		4　名	要介護2	4	名
要介護3		2　名	要介護4	6	名
要介護5		2　名	要支援2	0	名
年齢	平均	87.6 歳	最低　81 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	明島整形外科医・前川歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い駐車場と庭を備え、円形でゆったりと建設し、穏やかで明るい落ち着いた雰囲気である当ホームは、関連法人に特別養護老人施設を有し、福祉において長年の培ったノウハウを活かした「入居者中心」のケアを目指し全力投球をしている。「明るく　元気で」に重点を置き、レクレーションや機能訓練により、下半身や口腔面の向上に力を入れ、音楽療法にも取り組んでいる。1年に1回は徘徊者を想定した訓練を地域の人を交えて実施しており、入居者の安全と命の大切さを実践している。訪問時仲の良い入居者が笑いながら過ごす姿は、安住の地を手に入れた安心感を汲み取れ、今後益々期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 評価を真摯に受け止め、改善項目は出来るだけ取り組んでいるが、改善計画シートの作成はない。今後は、計画的に達成状況を把握しながら質の向上に繋がる改善計画シートを作成し、積極的に取り組むことが期待される。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は一部の職員のみで行っており、実施事項を簡潔に記述している。是非職員全員が自己評価表を目にし、項目の理解と実際のケアを比較し、現状の見直しやケアの統一に活用される事が期待される。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、南島原市布津総合支所市民課担当者・町内会長・家族会の会長・グループホーム所長・A棟管理者・B棟管理者の構成メンバーで2ヶ月に1回開催していたが、諸般の理由で11月と1月は止む無く休止し、3月は開催予定である。1時間～1時間半を費やし、参加者はそれぞれの立場を担った意見を述べ、活発な会議を開催しており、今後はコンスタントに開催する予定である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居者に関する状況の変化は電話で逐一報告をしている。ホームの玄関に意見箱の設置や、家族会を発足しており、代表には苦情相談の窓口を担ってもらい、傾聴の体制を充実させている。家族が来所する機会は多く、意見を尋ねる努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 所長が地域に長年居住しており、情報を入手する事ができ、祭りの神輿の立ち寄り場所に成っている等地域の人との触れ合いを大切にしている。又、小・中学校の運動会・夏祭り・選挙の投票等への参加で顔馴染みの関係である。

2.　評 価 結 果(詳 細)

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は「明るく楽しく自分らしく笑顔のあるホーム‥だから幸せ」として、自然に地域に溶け込み、人として自由に暮らせる支援の実現に向け、理念に沿って日々取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や介護目標をＢＳ法を使って、職員全員の意見に基づき、自立支援や安心して最期まで暮らせるホームを目指している。作り上げた理念は、玄関に明示し、黙読をし共有を図っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	所長が地域に居住している事で、情報を入手する事ができ、地域の祭りでは神輿の立ち寄り場所になっている等、触れ合いを大切にしている。又、小･中学校の運動会･夏祭り･選挙投票等への参加で顔馴染みの関係である。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は一部の職員により、実施している事を簡潔に記入している。又、評価後の改善は職員に話しているが、改善計画シートの作成はなく、できる事から取り組み、計画的に改善しているとはいえない。	○	評価を改善の一旦として考え、前向きに取り組んでいるが、職員全員が評価項目を理解し、質の向上に活用し、改善項目を確実にしていく為に改善計画シートを作成し、達成状況をチェックしながら取り組まれる事が期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催していたが、諸般の理由で11月と1月をやむなく休止し、3月は開催予定である。1時間～1時間30分を費やし、参加者はそれぞれの立場を担った意見を述べ、活発な会議を開催しており、今後、コンスタントに開催する予定である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者が利用しているサービスに関する、市町村の担当者が来所する事がある。又、徘徊者訓練等でお願いをする事もあり、顔馴染みで気軽に情報交換を実施している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会や訪問時に報告し、職員の離職等でホーム便りは5月以降が休止中である。今後担当者からの手紙方式等を視野に入れ検討中である。又、状態の変化は逐一電話で報告しており、金銭は個別の財布に入れ金庫に保管し、出納帳や領収書により、明確にし家族の了解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族会の代表に苦情相談窓口をお願いしたり、傾聴の体制が充実している。家族は出来るだけ来所しており、意見を尋ねる努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の笑顔が出るように心配りをしているが、離職者は時々はあるのが現状であり、年3～5回の慰労会でストレス発散をしている。それに伴い入居者のダメージについては、紹介等をして馴染めるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の状態に合わせ、選んで研修受講をしている。又、法人全体の勉強会やホーム内で介護教室を開きケアの再確認を行っており、情報の共有によるスキルアップを目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	所長がグループホーム連絡協議会の役員であり、研究会の研修は原則的に全員参加体制である。又、交流のある他ホームとは情報交換を実施し、サービスの向上に活かし取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は家族と一緒にホーム内見学や体験入所をし、ホームの話を聞き、納得しての入居に繋げている。又、入居後は先輩入居者で人のお世話が出来る方にお願いし、馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に人生の先輩である事を念頭に置き、一緒に過ごしており、時には何気に職員が和ませてもらう事があり、互いに支えられながら共同生活を楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護支援情報提供書に状況を記入し、初期情報を入手しながら入居者や家族とお話をして、希望や意向を汲み取り、出来るだけ意向に沿うよう検討している。今後、生活歴の更なる充実に向けた書式を検討中である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人又は家族の意見を聞きながら担当者の意見を踏まえて、目標を決めてサービス内容を作成している。又、モニタリングの実施はあるが、計画との関連性が不十分であり、計画作成後の家族による同意の記述はない。	○	介護計画は本人及び家族の意向を聴衆した目標と職員の気付きを盛り込み、同時にモニタリング(毎月行い連続で変化の把握や計画の達成状況が理解できる書式)により、現状理解をした計画を作成し、家族に同意(日付･記名･捺印)を得られることが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の1日の行動を記録に残し、処遇記録に計画･食事･バイタル･入浴等や個別に集約した状況を記述し、職員間で状況を共有して、短期(3ヶ月)･長期(6ヶ月)で計画の見直しを実施している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が安定した生活を保持する為に必要な、医療連携･医療機関への通院介助･重度化に伴う終末期の支援･リハビリや針治療･家族の宿泊･習字教室等柔軟に支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からの医療機関を優先しながら、協力医療機関等を含め相談や指導が常に仰げ、安心に繋がる適切な支援を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う看取りに関する指針を明確にして、家族の同意を得ている。ホームが取る方向性は模索中であり、職員のかかわりに関する勉強会の実施はなく共有しているとはいえない。	○	重度化に伴う看取りに関しては、家族･医師･ホームと話し合いを行い実施していくうえで、職員の立場は重要であり、ケア面や心身面を考慮した勉強会を実施し、今後に備える事が期待される。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄のパターンを把握し時間を決めて、早めに他の入居者に配慮して声掛けを行っている。又、失禁時は居室で交換し見えないようにしている。記録物は放置せず、個人情報の漏洩に注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の希望を優先し、1日の生活の流れを、おおまかに決めているが、固執することなく、起床時間が遅くなる事や居室での食事支援を行う事もある。又、睡眠は居室やリビングの畳の部分でしており、希望に沿って行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、皮むき等の食事の準備や洗い物、後片付けのできる人は手伝っている。食事は介助者が多く職員は一緒にできないが、所長が一緒に食卓を囲んでいる。おやつは入居者の希望を取り入れながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場は週3回、冬場は週2回を入浴日としている。2月は風邪が発生し入浴を休止する事が多く、半身浴･シャワー･清拭で補ってはいるが、他月でも全体的に入浴回数が少ない。	○	熱や風邪等の病気による入浴回避は別として、入浴による清潔保持や活性化を加味し、入浴を習慣付け、出来るだけ現在の入浴日には状態の安定している人は実施されることが期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の草取り･掃除･水遣り･新聞取り･家事の手伝い･できる入居者が他の入居者の見守りを行い、書道･風船バレー･おはじき･お手玉･すごろく･塗り絵等の手遊びを楽しみ、金銭管理が出来る人はお金を持ち、張りのある生活に向けた支援を実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭や駐車場が広く、ベンチを置き外気浴をしている。季節に応じた花見･紅葉･花火大会･ピクニック等、できるだけ戸外に行く機会を設け、閉じこもらない生活支援を実践している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は入居者が安定しており、玄関はもとより、居室の施錠（家族の同意を得て実施していた経緯がある）も行っていない。年1回地域の人を交え、徘徊者を想定した訓練の実施や、近隣の商店にはお願いの挨拶をして、施錠をしない工夫に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災･避難訓練は昼夜を想定し、消防署や地元消防団や警察の協力を得て実施している。職員間で自衛消防組織を作り初期消火に力をいれ、ホーム全体に水道ホースが届く配置がある。地震や水害に関しては今後の課題であるが、万が一に備え、自家発電機の準備がある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連法人の栄養士によるメニューであり、バランスよく美味しいものを提供し、1週間の食材保存を実施している。入居者の状況に合わせ、刻み･ミキサー･トロミ等で対応している。又、水分は不足しないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	閑静で日当たりが良く、円形の建物で、畳の部分を備えた広いリビングや中庭があり、それぞれにベンチや椅子を置き居場所を確保している。換気や空調に配慮して、オゾン脱臭装置をホーム全体に設置している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者はリビングで楽しみ、居室は就寝の場所として、ホーム全体が我が家的にしている人が多く、お位牌･コンテナ･テレビ･小物等を持ち込み個人差がある。ホーム側はベット･箪笥を設置し、現在は壁を利用して1年を通したその人の写真を額に入れたパネルを準備し、今後、全室に設置予定である。又、居室にオムツがそのままの状態で置いてある。	○	入居者はリビングで過ごす事が多いが寝室として考えると、少し雑然としており、現在、製作中である写真のパネルを全室に設置され、オムツの保管場所を工夫し、安らぎの場所としての居室作りが期待される。